慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	『続錦繡段』所収作品について：『新選集』『新編集』研究その六
Sub Title	On the poems compiled in Zoku-Kinshudan : a study of Shinsen-shu and Shimpen-shu part6
Author	堀川, 貴司(Horikawa, Takashi)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2015
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.50 (2015.) ,p.145- 159
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	山本英史前文庫長・川上新一郎教授退職記念
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20150000-0145

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『続錦繡段』所収作品について

―『新選集』『新編集』研究その六―

堀川貴司

『錦繡段』　天隠龍沢編　康正二年（一四五六）成立、三二八首

『錦繡段抄』　月舟寿桂注（漢文）　明応五年（一四九六）以前成立

継天寿戩注（カナ）　一六世紀前半か

『続錦繡段』　月舟寿桂編　大永元年（一五二一）成立、三〇一首

『続錦繡段抄』　月舟寿桂注（漢文）　大永元年頃か

継天寿戩注（カナ）　一六世紀前半か

『錦繡段』が伝天隠龍沢自筆本（東洋文庫蔵）などの古写本を存し、まず詩集として流布した後に抄物が作られたのに対し、

一

『錦繡段』所収作品を扱った「その四」（第四十八輯、二〇一四・二）に引き続き、『続錦繡段』（以下、本書と称する）所収作品について考察したい。

まず、『新選集』から本書に至る流れを再確認しておこう。

『新選集』　江西龍派編　応永七年（一四〇〇）前後成立、約一二〇〇首

『新編集』　慕哲龍攀（・瑞巌龍惺）編　応永一八年（一四一一）前後成立、約一三〇〇首

本書は詩集としての伝本が古活字版以降に限られていることや、編者が抄物作者と同一で、かつ『錦繡段抄』とも重なることなどから、当初から抄物とすることを前提で編まれたと推測されている。これは『中華若木詩抄』とも共通する興味深い成立事情であろう。(1)

本書には常庵龍崇の序と月舟の跋がある。それぞれ掲げる。(2)

凡詩什之為編也、太衆則失之汎、太簡則失之疎。学者難於得其中矣。昔吾豕庵翁、概采唐宋元明諸賢絶句詩、輯成一帙、名曰新選集。而又蟬闇慕喆両塤篪、扶隠蒐逸、別出一巻、更名新編集。前後摠二千有篇、江湖競写、以為詩家捷径。然学者稍病其太衆、而不便誦習也。近世黙雲老禅、就選編二集、抜其尤者僅三百余篇、要俾誦者無労臆持。所謂錦繡段是也。然学者又病其太簡、而難通事物也。今□幻雲老人、拠令嗣継天詩伯之請、更就二集、追拾其遺、得三百篇、附益於錦繡段、以名之続錦繡段。於焉、学者始喜其不衆不簡、而得其中矣。

一日継天為余裒一本来、徴作之序。々非余所能就、以余之近稟蟬闇、且与豕・慕二翁家譜綿属。而恋本之義、不可得讓焉。睠夫、黙雲之以詩鳴於一世也、規模豕庵、借潤蟬闇。而於詩什之編、豈有異同之分乎。唯以転観約取、為務焉耳。□幻雲之視黙雲、亦如黙雲於豕庵、而無有二見。唯以損有補不、為要焉耳。嗚呼唐宋諸賢之作、章々句々皆錦繡、而黙雲　幻雲二老、心肝五臓亦皆錦繡也。故彼浩々二千余篇、未経二老品題者、其如人之衣錦繡而夜行。雖絢麗孰得観焉。此璨々六百余篇、既経二老品題者、亦如人之衣錦繡而昼遊。観者知其為花栄也。

□継天従師受庭下訓者稔矣。而今、賜之以錦繡段、後来、一弁香代青玉案以報之、則他白髪三径草、敬為鞏和尚拈出者、豈独侍芳於千載也哉。

大永初元孟冬中休角虎道人龍崇謹序

仮に三段落に分けてみた。大意を掲げる。

詩の総集というものは、数が多いと広すぎ、少ないと疎漏になるので、詩を学ぶ者は中庸を得ることが難しい。昔江西龍派が唐宋元明の絶句を集めて『新選集』を、瑞巌龍惺と慕哲龍攀がその残りを拾い上げて『新編集』を作り、便利な本として流布したが、数が多すぎて暗誦には向いていなかった。そこで天隠龍沢が両者から三百篇あまりを抜き出し、進んで暗誦出来る

ようにしたのが『錦繡段』である。しかしこれでは少なすぎて、物事を広く知ることができない。今、月舟寿桂は弟子の継天寿戩の要請に応じ、さらに三百篇を両者から抜き出して『続錦繡段』とした。これによって詩を学ぶ者がやっと、多すぎず少なすぎず中庸を得たと喜んだ。

ある日継天が私に一冊を与えて序を求めた。その任ではないが、私は江西に学び、瑞巖・慕哲の一族でもある。これだけ深い関係であるから辞退はできない。そこで考えてみるに、天隠は天下に知られた詩人だが、江西を手本とし、瑞巖を参考としている。総集を編むのに、意見が異なることなどあろうか。ただ（二集）全体を見て選び出せば済むことだ。月舟が天隠に対する関係は、ちょうど天隠と江西のそれと同じだから、やはり異なる見解はない。（『錦繡段』に）多いところを削り、足りないところを補うように選ぶだけだ。そもそも唐宋の詩人たちの作品はどの詩句をとっても錦のように素晴らしいのだし、天隠・月舟は五臓六腑から錦のような詩句を吐き出す詩人である。だから、二集の二千あまりあるせっかくの優れた詩が、このような二人の選択を経なかったならば、「錦を着て夜行くが如し」で誰の眼にも触れず埋もれてしまっただろう。この燦然たる六百余篇こそ、二人の選択を経た、まさに「錦を着て故郷に帰る」もので、見るものはその精粋であることを知るのである。

継天は師月舟の教えを長年受けてきた。張衡「四愁詩」に「美人贈我錦繡段、何以報之青玉案」とあるが、今師匠から（続）錦繡段を贈られた継天は、後に（建仁寺住持となってその入寺式のときに）青玉案の代わりに一弁の香を師に献じ（て法嗣であることを表明し）て恩に報いることとなろう。そうすれば、黄庭堅が「何為陳師道、白髪三径草」（王安石の新法が終わったのに、白髪頭で隠居したままだ）と詠んで惜しんだ陳師道が、後年世話になった蘇軾・黄庭堅ではなく、最初に恩を受けた曾鞏を尊ぶことばを「嚮来一弁香、敬為曾南豊」と、禅僧の師弟の関係に擬えて述べた（『宋史』巻四四四・文苑伝六・陳師道）のと同様に、師恩を忘れない美談として語り継がれるだろう。

『新選集』『新編集』の意義を十分認めつつも、初心者の入門書、すなわち丸ごと暗誦して今後の作詩能力の基礎とする書物としては、大部に過ぎる点を指摘し、逆にそれを抜粋した『錦繡段』のみではまた少なすぎるとして、続編の意義を強調する。ついで、同じ学派に属し（文中に述べるように、彼自身もその

流れに属する）、詩に対する評価を共有するなかですべてが編集されていることにも注意しつつ、正続錦繡段の成立によってその価値観が広く普及することを望み、最後に継天の将来を予祝して締めくくる。

月舟の跋は次の通り（続群書類従本『幻雲文集』にも収め、末尾の年月日署名を欠くほかは異同なし）。

戩趨而過庭。予曰、参詩乎。対曰、未能多見詩、何敢参格外意。予曰、長篇古風吾邦賦者鮮矣。往々所珍玩、唯七言絶句而已。故近世黙雲師抜萃於新選・新編二集、名曰錦繡段、俾二三子誦之。爾何不見。曰、此則予所目撃、尚嫌其少、願師重沈鉄網、収拾滄海遺珠。於是、予不顧忘醜之誚、為之録三百篇、以名続錦繡段。且謂戩曰、吾雖不具詩家正法眼、暗中模索、以付与爾。若能参得活句、則両三篇也足。何必擾々焉哉。然古人評詩、以用三多。曰、見多、做多、商量多。爾見者多而做、々者多而商量、々々亦多。則是吾家秘密蔵也。異日容易勿啓玄鑰。大永初元重陽　幻雲子寿桂

こちらは継天との問答体である。大意は以下の通り。

詩を学ぶなら、七言絶句、それも『錦繡段』がよいと言う月舟に対し、それは見ていますが少なすぎるので、是非よい詩を選んでください、と継天が懇願する。そこで恥を顧みず三百篇を選び『続錦繡段』と名付け、継天には、詩人としての眼力もなく選んでしまったが、もし悟りを開かせるような力のある句に深く学べば二三篇で足りる、こんな大部な詩集は必要ないが、古来「三多」ということがあり、おまえもよく見、よく作り、よく考えているから、これも学びなさい、長くわが宗派の秘蔵として人に教えてはいけない、と言った。

この大永元年（一五二一）には継天は二七歳であり、とても初心者とは言えない年齢である。序跋とも、継天のために作られたように述べるが、実際には、それより年少の、これから学ぼうとする十代の僧侶のためのものであろう。抄物が相前後して作られたのもそういった教育目的が大きい。月舟が表現の典拠となる漢詩文を指摘し、そこに継天がカナで説明を加えることで、よりわかりやすい注釈になっているのも、啓蒙的な姿勢と言えよう。継天はむしろ月舟の協力者という位置づけがふさわしいだろう。

二

本書における詩の分類について、先行三書との違いを見てみたい。それぞれ、次のような部門を立てている。

＊『新選集』一九部門（所収作品数は両足院本による）
天文33・節序97・地理4・寺観27・懐古附題詠152・人品24・簡寄附贈答57・尋訪附会合11・送別40・行旅附従軍57・遊覧62・閨情50・哀傷9・器用31・食服14・草木120・鳥獣74・画図127・雑賦195

＊『新編集』二五部門（所収作品数は慶應義塾図書館本による）
天文25・節序100・地理31・草木105・禽獣43・宮省15・居室38・懐古附題詠124・儒学46・僊道24・釈教34・武用附従軍19・雑職17・人事15・簡寄附贈答72・訪尋附会合15・送別35・行旅56・遊覧52・閨情61・哀傷16・図画102・器用40・食服41・雑賦162

＊『錦繡段』一八部門（所収作品数は全三三一首の増補本による）
天文22・地理15・節序32・懐古付題詠73・人品5・簡寄附贈答10・尋訪附会合4・送別10・行旅18・遊覧12・閨情14・哀傷3・器用14・食服3・草木33・鳥獣11・画図34・雑賦18

＊『続錦繡段』一八部門
天文5・地理21・節序20・懐古46・人品13・簡寄18・草木29・禽獣8・遊覧18・送別9・尋訪2・行旅20・閨情10・哀傷3・器用9・食服11・画図13・雑賦46

『新選集』に対して、『新編集』は動植物を前に移動させ、部門を増やして居所や人物を細かく分類した。両者からの抜粋である『錦繡段』は、『新選集』の部門を踏襲し、所収作品の少ない寺観を省いた。本書は部門数は『錦繡段』を踏襲するが、配列や名称において『新編集』にも近づけようとしている。

部門別の作品数を見ると、『錦繡段』で上位の懐古附題詠73・画図34・草木33・節序32・天文22がそれぞれ46・13・29・20・5といずれも大きく減っているのに対し、その次位にあたる行旅18・雑賦18・地理15がそれぞれ20・46・21と増えている。他には食服3が11、遊覧12が18となっているのが目立つ。両者で題材のバランスを取ろうとしていること、特に雑賦の大幅な

増加は、なるべく多様なテーマを収めるとともに、他部門では収めにくい自省的な内容のもの（「夜坐」「偶書」など）に注目していることの表れであろう。常庵の序のなかに「唯以損有補不、為要焉耳」（唯だ有を損じて不を補ふを以て要と為すのみ）とあるのは、『老子』天道第七十七の「天之道、損有余而補不足」（天の道、余り有るを損じて足らざるを補ふ」を踏まえたもので、『錦繡段』に多い部門は少なく、少ない部門は多く採録した本書の方針を的確に捉えた文言であろう。

なお、『新選集』『新編集』それぞれからの採録比率は、両書ともほぼ六：四で、『新選集』がやや多い。まず『新選集』から選び、ついで『新編集』で補った、というやり方は共通なのであろう。

三

次に個々の作品の配列について見てみる。

『錦繡段』は、各部門において、それぞれ、

ア『新選集』『新編集』の順に

イ該当部門からその配列順に

ウ原撰本系統所収作品の範囲内から

ピックアップして並べるという原則がある。部門名は『新選集』に近いため、『新編集』にしかない部門はそれぞれ内容によって判断しているが、三つの原則は揺るがない。

しかし、本書については、様相が異なる。

ア・イについては、人品・草木・送別・尋訪・行旅・閨情・食服においてはほぼ守られているものの、他は次のようにまちまちである。

天文……選・編の順ではあるが、作品の配列は逆順

地理……ア・イともに守られず、他部門からも多く採録している

節序……季節順に再配列

懐古……時代順に再配列、ただし末尾六首は再び古い時代のものを追加

簡寄・哀傷・図画……編・選の順になっているが、イはほぼ原則通り。

禽獣……類似のものをまとめている。

遊覧・器用……配列・部門とも複雑、法則が見つけにくい。

雑賦……ほぼア・イとも守っているが、一部そうでないとこ

ろは、法則が見つけにくい。

また、採録作品を見ていくと、選・編のもとの部門において、冒頭または末尾に位置するものが一一首、末尾の一首前に位置するものが、六首入っている。『錦繡段』に選ばれなかったものからの選択であるから、必然的にそういう結果になったとも考えられるが、意図的にそうした可能性もあろう。

ウについては、別表に示したとおり、増補本にしか見られない作品が四首（作品番号7・54・79・83）、揉合本にしか見られない作品が三首（作品番号32・49・51）含まれていることが、『錦繡段』と大きく異なる点である。

前者については、本書で用いた『新選集』が増補本系統であったと見ることもできよう（これは増補本の成立時期とも関わる問題である）。しかし、最も重要なのは、揉合本にしか見られない作品が、現存揉合本の調査により、明らかに本書からの増補であると判断されることである。すなわち、選・編から正続『錦繡段』が抜粋された、という大原則がこの三首に関しては通用せず、『続錦繡段』から原本たる選・編へ、という逆流現象が起きているのである。

そうなると、『新選集』増補本系統のみに収める作品についても、本書独自の採録に係り、逆に『新選集』の増補の際、本書が参考にされたという可能性も考えられる。

そこまでして採録したかった理由を読み取ることはむずかしい。ただ54「四皓廟」や83「秋胡子」について言えば、同題の詩があるにもかかわらず敢えて重複して採録しているので、題をいかに詠み分けるか、といった問題意識からの選択かもしれない。

ちなみに、他にも二首あるいは三首程度、同題の詩が並ぶところが多く見られる。『錦繡段』にも複数の同題詩が収められていて、「春日作」「明妃曲」「子陵釣台」などは本書にも引き継がれているが、やや細かな題においても同題詩を収めるのが本書の特徴となっている。前節で多様なテーマを収めるのが特徴だ、と述べたことと矛盾するようであるが、同じテーマにおける多様な表現を見せる、というのも教育的配慮と言えよう。ただ、それらが選・編においても連続あるいは近接して並んでいる場合もあり、一面では安直な選択とも言えそうである。

一方、はっきりと意図が感じられるのは、作者別の採録数である。多い順に並べると、

陸游（務観）　四二首　南宋

白居易　一二首　中唐
楊万里（廷秀、誠斎）　六首　南宋
羅隠　四首　晩唐
王安石（荊公）　四首　北宋
黄庭堅（魯直）　四首　北宋
蔡珪（正甫）　四首　金
陳与義（去非、簡斎）　四首　南宋

となり、他は三首以下である。

『錦繡段』でも陸游一五首、白居易五首なので、同様の傾向であるとも言えるが、全体の作品数が『錦繡段』より三〇首ほど減ったにもかかわらず、二人の作品の採録数が増えているのは、明らかに編者の志向であると断定して良いだろう。

禅林において別集が集中的に学ばれる詩人の代表格は、盛唐の杜甫、北宋の蘇軾と黄庭堅であった。白居易と陸游は抄物もなく、それほど熱心に研究されたとは言えない[3]。それを敢えて学ばせようという教育的配慮があるのであろう。また、羅隠は『三体詩』にも多く採られている詩人である（白居易も同様）。編者周弼の生きた南宋末の江湖派の志向をも意識し、中晩唐から南宋へという流れを意図した選択であり、本書に、まず最初に学ぶ『三体詩』を補助する役割を与えようとするものとも言えよう。

残念ながら本書は、多様な版種、注釈書に恵まれた『錦繡段』に比べ、近世以降それほど流布しなかったが、以上のように細かく検討すると、そこには編者の個性的な編集作業の様子が窺われる、興味深いアンソロジーであることがわかる。

〔注〕

（1）亀井孝編（柳田征司執筆）『語学資料としての中華若木詩抄（系譜）』（清文堂出版、一九八〇）および柳田「『続錦繡段』の漢文注と仮名抄」（『室町時代語資料としての抄物の研究』武蔵野書院、一九九八、所収。初出一九七九）による。なお、『続錦繡段』は、柳田氏が指摘するように、最も原型に近いと思われる建仁寺両足院本『続錦繡段抄』のみ三〇〇首であり、序跋においても「三百」と明言しているので当初はそうだったか。しかし、仮名鈔の段階で既に一首増補されたと思われるので、三〇一首を基準に考察した。

（2）東洋文庫蔵古活字版により、同文庫蔵『続錦繡段抄』を参照した。句読点、ナカグロを補い、欠字は□を入れて示した。なお両伝本については『岩崎文庫貴重書書誌解題』Ⅱ（東洋文庫、一九九八）に書誌・書影を収める。

（3）太田亨「日本中世禅林における白居易受容の特質について」（『白居易研究年報』一六、二〇一五・一二）は白居易受容を網羅的に検討している。

『続錦繡段』作品一覧（選は両足院本、編は慶應本による）

部門	番号	題	作者	新選集	部門	新編集	部門	備考
天文	1	霽雪	戎昱	32	天文			末尾前
	2	雪月	楊済翁	5	天文			
	3	三学院雪夜対月	趙閑々			125	節序	末尾
	4	晩雪	陸務観			23	天文	
	5	夏雨	祝廉夫			7	天文	
地理	6	西湖	龍発	534	遊覧			
	7	爛柯山	張志道	**彰 191**	懐古附題詠			増補本のみ
	8	宿咸宜観	張籍			529	僊道	
	9	題翠微寺	亡名氏			575	釈教	末尾
	10	新沙	裴夷直			126	地理	
	11	三峡歌	陸務観			130	地理	
	12	銛老宿蘆	陸務観	156	寺観			
	13	浣紗石	盧綸			137	地理	
	14	塞下	李益			586	武用附従軍	
	15	極楽尼院	鄭有極	136	寺観			
	16	無本上人小斎	鄭谷	151	寺観			
	17	薬靖逸東庵	周臣端	139	寺観			
	18	静芳亭	袁伯長			326	屋室	
	19	王子儀野処	阮履長	155	寺観			
	20	秋日銭塘雑興	僧季潭	301	懐古附題詠			
	21	天津橋春望	雍陶	271	懐古附題詠			
	22	柏林寺南望	郎士元			848	遊覧	
	23	三峡歌	陸務観	510	遊覧			
	24	苕渓	胡仔	532	遊覧			
	25	農舎	陸務観			599	雑職	
	26	農舎	陸務観			600	雑職	
節序	27	清明	王元之	42	節序			
	28	清明	周秋陽			46	節序	
	29	春日作	呂仲見	53	節序			
	30	春日作	趙彦筑	60	節序			
	31	春日作	趙子昂	80	節序			
	32	上巳飲銅川酒楼	夏景高	**蓬 852 積 858**				揉合本のみ
	33	春晩	王荆公	70	節序			
	34	晩春	劉潜夫			70	節序	
	35	南荘春晩	李群玉	555	遊覧			
	36	夏中雑書	陸務観			83	節序	
	37	新涼	厳滄浪	1118	雑賦			
	38	大暑	趙宜之			93	節序	
	39	東渓秋日	釈祖可			101	節序	
	40	秋霽	崔道融			97	節序	
	41	七夕	晏叔原	101	節序			
	42	中秋夜半無月…	陸務観			110	節序	
	43	秋日	方巨山	114	節序			
	44	冬夜作	陳正夫	127	節序			
	45	夜深	周伯弓	128	節序			
	46	除夜	陳去非	125	節序			
懐古	47	太公望	張楽全	164	懐古附題詠			
	48	読老子伝	陸務観	167	懐古附題詠			
	49	楚懐王	崔道融	**蓬 853 積 859**				揉合本のみ
	50	屈平廟	陸務観	169	懐古附題詠			

部門	番号	題	作者	新選集	部門	新編集	部門	備考
	51	秦皇墓	許渾	184	懐古附題詠			
	52	范増	王荆公	**蓬・積 427**				揉合本のみ
	53	四皓廟	許渾	194	懐古附題詠			
	54	四皓廟	李義山	**彰 187**	懐古附題詠			増補本のみ
	55	明妃曲	白居易	200	懐古附題詠			
	56	明妃曲	白居易	201	懐古附題詠			
	57	明妃曲	趙君玉	214	懐古附題詠			
	58	子陵釣台	羅隠	225	懐古附題詠			
	59	子陵釣台	黄魯直			401	懐古附題詠	
	60	子陵釣台	張立斎	230	懐古附題詠			
	61	子陵釣台	康里⊠	233	懐古附題詠			
	62	子陵釣台	羅大経	236	懐古附題詠			
	63	西施	羅隠			369	懐古附題詠	
	64	漢高祖廟	張安道			374	懐古附題詠	
	65	揚雄	謝畳山			381	懐古附題詠	
	66	淮陰廟	張文潜			389	懐古附題詠	
	67	李夫人	徐寅			391	懐古附題詠	
	68	曹公	銭惟岳			407	懐古附題詠	
	69	淵明辞	彭元亮			413	懐古附題詠	
	70	謁諸葛草廬	劉清叔	244	懐古附題詠			
	71	書淵明桃源伝后	陸務観	255	懐古附題詠			
	72	淵明酔石	黄子耕	256	懐古附題詠			
	73	煬帝陵	羅隠			424	懐古附題詠	
	74	観明皇以茘支…	仲舜凱	276	懐古附題詠			
	75	読杜詩	陸務観	281	懐古附題詠			
	76	杜工部	王君謨			434	懐古附題詠	
	77	杜牧	田画			433	懐古附題詠	
	78	歎平泉春	羅鄴	289	懐古附題詠			
	79	東坡	僧蔵叟	**彰 339**	懐古附題詠			増補本のみ
	80	龍徳故宮懐古	郝伯常			454	懐古附題詠	
	81	東州有感	宋九嘉			481	懐古附題詠	末尾
	82	読紀信伝	段継昌			526	儒学	
	83	秋胡子	銭菊友	**彰 290**	懐古附題詠			増補本のみ
	84	秋胡子	趙子昂	989	画図			
	85	詠史	劉貢父	309	懐古附題詠			
	86	詠史	陸務観	310	懐古附題詠			
	87	始皇陵	羅隠			361	懐古附題詠	
	88	太公望	牛奇章	165	懐古附題詠			
	89	題宋高廟書東坡詩	僧一初	1043	雑賦			
	90	読経	陸務観	307	懐古附題詠			
	91	読汝南遺事	楊奐			416	懐古附題詠	
	92	読孔北海伝	雷希顔			527	儒学	末尾
人品	93	老将	僧保進	325	人品			
	94	老将	陸務観			576	武用附従軍	冒頭
	95	上竿伎	晏同叔	327	人品			
	96	蚕婦	謝畳山	330	人品			
	97	漁父	陸亀蒙	331	人品			
	98	漁父	方秋崖	334	人品			
	99	漁父	王烈孫	335	人品			
	100	忠義兵	杜子川			577	武用附従軍	
	101	酔歌	陸務観			589	武用附従軍	

部門	番号	題	作者	新選集	部門	新編集	部門	備考
	102	老人歌	顧況			595	雑職	冒頭
	103	卜者	陸務観			611	雑職	末尾
	104	聞東隣歌	范徳機			621	人事	
	105	酒仙	馬自然			534	僊道	
簡寄	106	贈女道士鄭玉華	施肩吾			536	僊道	
	107	贈接華孟老	程鉅夫			601	雑職	
	108	贈善医劉恵卿	楊誠斎			603	雑職	
	109	秋雨中贈元九	白居易			632	簡寄附贈答	
	110	寄朱希顔	竇常			647	簡寄附贈答	
	111	和元九駱口駅旧題詩	白居易			692	簡寄附贈答	
	112	贈相士	蔡君謨	321	人品			
	113	酔後却寄元九	白居易	353	簡寄			
	114	寄諸弟	欧陽元功	359	簡寄			
	115	寄友人	僧山老	368	簡寄			
	116	寄戒上人	鄭頤中	371	簡寄			
	117	和常祖命	祝廉夫			506	儒学	
	118	酬友人見贈	皇甫孝常	388	簡寄			
	119	寄広文張博士	王建	346	簡寄			
	120	贈友人辺遊	馬戴	385	簡寄			
	121	呈庾湖蕭師属	王章甫	374	簡寄			
	122	簡叔父	郭子端	341	簡寄			
	123	吐蕃列館臥病寄…	呂温	361	簡寄			
草木	124	梅	趙君実	678	草木			
	125	梅	僧雪岑	688	草木			
	126	梅	陸務観	684	草木			
	127	紅梅	白玉蟾	691	草木			
	128	竹間梅	胡徳昭	702	草木			
	129	種梅	劉潜夫	706	草木			
	130	商洛見梅	章子厚	708	草木			
	131	雪裡観梅	戴石屏	709	草木			
	132	細梅	陸務観			166	草木	
	133	燈下梅影	李公渡			174	草木	
	134	意山堂種桃李	陸務観	713	草木			
	135	海棠	江子我	718	草木			
	136	荷花	陸務観	739	草木			
	137	折荷花	陳藍山	741	草木			
	138	盆荷	僧居簡	744	草木			
	139	菊	元稹	756	草木			
	140	松	王荆公	766	草木			
	141	因官伐松	胡尊生	768	草木			
	142	柳	王貞白	783	草木			
	143	柳絮	陳去非	787	草木			末尾前
	144	牡丹	盧子衡	727	草木			
	145	開元寺牡丹	張説			157	草木	
	146	夢観牡丹	陸務観			160	草木	
	147	野菊	王子貞			229	草木	
	148	山茶一樹自冬至…	皮日休			240	草木	
	149	盆萍	文与可			246	草木	
	150	苦竹	高子文			250	草木	
	151	楸樹	趙済甫			261	草木	末尾
	152	柳	僧雪岑	784	草木			

部門	番号	題	作者	新選集	部門	新編集	部門	備考
禽獣	153	白鷺	白居易			269	禽獣	
	154	鷺鷥	杜牧			271	禽獣	
	155	杜鵑	銭子漸	801	鳥獣			
	156	寒雀	楊廷秀			287	禽獣	
	157	獄中見燕	王子端			302	禽獣	
	158	燕	陸務観	798	鳥獣			
	159	聞新雁有感	陸務観			1217	雑賦	
	160	聞雁	薛新甫	823	鳥獣			
遊覧	161	過余杭故内廃址	謝羽皐			457	懐古附題詠	
	162	江村	孫觀	543	遊覧			
	163	宿山寺	鄭有極	138	寺観			
	164	小園閑歩	宋愿父	548	遊覧			
	165	題継祖蟠室	陳去非	150	寺観			
	166	過淮	秦少游			812	遊覧	
	167	暁過西湖	釈円至			819	遊覧	
	168	遊何氏園	馬定国			825	遊覧	
	169	清明日遊大傅林亭	辛文房			835	遊覧	
	170	遊泰安竹林	許安仁			850	遊覧	
	171	郊行	鄺元輿			851	遊覧	
	172	題弋陽館	張祜	503	遊覧			冒頭
	173	登飛来峰	王安石	504	遊覧			
	174	過黄牛峡	王亀齢	508	遊覧			
	175	遊双林寺	袁幼之	526	遊覧			
	176	連魚灘	楊廷秀	511	遊覧			
	177	一渓	段継昌			60	節序	
	178	適越	李紳	177	懐古附題詠			
送別	179	送朱叔暘赴閩幕	呂伯恭			515	儒学	
	180	送蕭俛相公帰山	趙嘏	406	送別			冒頭
	181	送日本僧帰	韋莊	417	送別			
	182	送郷中故人	方干	425	送別			
	183	送人	岑参	427	送別			
	184	都門送別	沈彬	438	送別			
	185	別滁	欧陽永叔			729	送別	
	186	送隆礼敦知伯世粛老	釈節徳操			732	送別	
	187	送僧帰淮西	僧聖徒	421	送別			
尋訪	188	訪諸葛錬師不遇	高九万	397	尋訪			
	189	問韋山人	白居易			1174	雑賦	
行旅	190	江陵使至汝州	王建	452	行旅			
	191	奉使安南国出都門作	張志道	454	行旅			
	192	嶺南帰途覧鏡	魏南史	456	行旅			
	193	宜興道中	僧石林	465	行旅			
	194	寓蓬萊館	陸務観	468	行旅			
	195	舟中	何雁翔	491	行旅			
	196	塞上	柳如京	500	行旅			
	197	塞下曲	陸務観	501	行旅			末尾前
	198	燕山道中	蔡正甫			765	行旅	
	199	燕山道中	蔡正甫			767	行旅	
	200	征南口号	杜瑛			777	行旅	
	201	田家歇馬	顧謹中			785	行旅	
	202	早発	鮮于溥			797	行旅	
	203	按部道中	蕭真卿			802	行旅	

部門	番号	題	作者	新選集	部門	新編集	部門	備考
	204	郢州城西	馬定国			845	遊覧	
	205	剣南道中遇微雨	陸務観	460	行旅			
	206	嵩山道中	趙周臣			855	遊覧	末尾前
	207	臨川道中	彭復雅	520	遊覧			
	208	呉江晩泊	僧道原	522	遊覧			
	209	道中	高子文			89	節序	
閨情	210	宮怨	司馬札	574	閨情			
	211	寄遠	唐茂老妻	595	閨情			
	212	宮粧	陳簡齋	597	閨情			
	213	戍婦詞	何彦登	607	閨情			
	214	戍婦詞	胡平仲	608	閨情			
	215	長信宮	趙嘏			857	閨情	
	216	宮中詞	王建			867	閨情	
	217	宮詞	馬祖常			897	閨情	
	218	宮詞	武朝宗			310	宮省	
	219	采蓮曲	王子端			905	閨情	
哀傷	220	哭微之	白居易			920	哀傷	
	221	過故友曲	王駕			921	哀傷	
	222	夢亡友譚徳称	陸務観	617	哀傷			
器用	223	太白扇頭	李端甫			1072	器用	
	224	初聴羌笛	方君遇	636	器用			
	225	書扇	黄庭堅			1055	器用	
	226	傀儡	梁鎧	644	器用			
	227	杜善甫乞炭	劉少宣			1070	器用	
	228	書燈	劉立雪	650	器用			
	229	暮鐘	劉彦甫			1074	器用	末尾前
	230	隣燈	范徳機			1059	器用	
	231	聞琵琶	黄庭堅			1043	器用	
食服	232	謝王佺寄丹	程伊川	655	食服			冒頭
	233	乞米	黄君度	656	食服			
	234	食蕨	李南金	657	食服			
	235	謝人恵茶	韓子蒼	664	食服			
	236	烹茶	呂居仁			1086	食服	
	237	試双井茶	徐得之			1088	食服	
	238	菱沼	楊廷秀			1101	食服	
	239	山村経行回施薬	陸務観			1103	食服	
	240	答趙康彝送地黄膏	虞伯生			1104	食服	
	241	羅衫	白居易			1107	食服	
	242	謝朱元晦寄紙被	陸務観			1108	食服	
図画	243	題帰来図	黄庭堅			945	図画	
	244	子猷訪戴図	謝幼謙			948	図画	
	245	謝成章兄為予作掀篷軸	潘廷堅			968	図画	
	246	蘇子瞻学士墨竹	顧謹中			971	図画	
	247	題子昂馬	虞伯生			985	図画	
	248	関山風雨図	張磯			999	図画	
	249	雪谷早行図	蔡正甫			1008	図画	
	250	宋高宗題観瀑図	僧一初	878	図画			
	251	題画山水	黄晋卿	882	図画			
	252	題二喬図	僧道原	899	図画			
	253	訪戴図	田耕叟	909	図画			
	254	墨梅	僧北磵	957	図画			

部門	番号	題	作者	新選集	部門	新編集	部門	備考
	255	題王元章紅梅	張仲挙	963	図画			
雑賦	256	直宿玉堂懐旧	范成大	990	雑賦			冒頭
	257	飲張功父園戯題扇上	陸務観	996	雑賦			
	258	花時遍遊諸園	陸務観	997	雑賦			
	259	菩提寺禁裴迪…	王維	1031	雑賦			
	260	山村行散	蕭則陽	1008	雑賦			
	261	再葺夷陵幽居	李渉	1006	雑賦			
	262	簡堂庵	僧子蒙	1009	雑賦			
	263	山亭	杜子野	1015	雑賦			
	264	春恨得家信	徐凝	1035	雑賦			
	265	感旧	陸務観	1037	雑賦			
	266	月窓索余近作因繋以詩	翁景山	1040	雑賦			
	267	春日絶句	陸務観	1109	雑賦			
	268	暮立	白居易			100	節序	
	269	述懐	僧雪岑	1074	雑賦			
	270	自得	劉恭玄	1077	雑賦			
	271	門外	黎師倶	1087	雑賦			
	272	買酒	陸務観	1095	雑賦			
	273	答春	白居易	1105	雑賦			
	274	酒病偶作	皮日休			1155	雑賦	
	275	春晩村居雑興	陸務観	1112	雑賦			
	276	春雨不止	楊万里	1115	雑賦			
	277	曝日	僧叔良	1130	雑賦			
	278	客夜	李文叔	1137	雑賦			
	279	夜眠	曹択可	1138	雑賦			
	280	夜坐	陸務観	1143	雑賦			
	281	夜坐	陸務観	1144	雑賦			
	282	池館夜坐聴雨	范徳機	1147	雑賦			
	283	睡起	李公甫	1160	雑賦			
	284	信筆	陸務観	1165	雑賦			
	285	題窓	雛子順	1168	雑賦			
	286	偶書	唐洪甫	1173	雑賦			
	287	欲出遇雨	陸務観	563	遊覧			末尾前
	288	偶書	僧道潜	1175	雑賦			
	289	即事	蔡正甫			513	儒学	
	290	甲子秋出遊	陸務観			1177	雑賦	
	291	錦城	范至能			1138	雑賦	
	292	宣政末所作	馬定国			1151	雑賦	
	293	絶句	趙子昂			1131	雑賦	
	294	醉後	劉之昂			1249	雑賦	
	295	孤店	陸務観			1219	雑賦	
	296	偶作	僧季潭	1177	雑賦			
	297	嘆髪落	白居易			613	人事	
	298	征婦詞	趙崇璠	609	閨情			
	299	晩登浄遠亭	楊廷秀			322	屋室	
	300	偶題	徐淵子	1172	雑賦			
	301	歩虚詞	白玉蟾			535	僊道	